

令和5年漁期の底びき網漁業の漁模様

令和5年漁期（令和5年9月～令和6年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様についてお知らせします。漁獲量の集計は県水産試験場漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました。

1. 漁獲量及び水揚金額

令和5年漁期の漁獲量は2,620トン、水揚金額は11.9億円となり、漁獲量、水揚金額ともに前年漁期と比べて減少しました（図1）。

震災以前の漁獲量は2,000トン前後、水揚金額は7～10億円で推移していましたが、震災後は2,500トン前後、10～14億円で推移しています。震災以降は単価の高いヤリイカに支えられていましたが、近年はヤリイカ漁獲量の減少により漁獲量、水揚金額ともに微減傾向にあります。

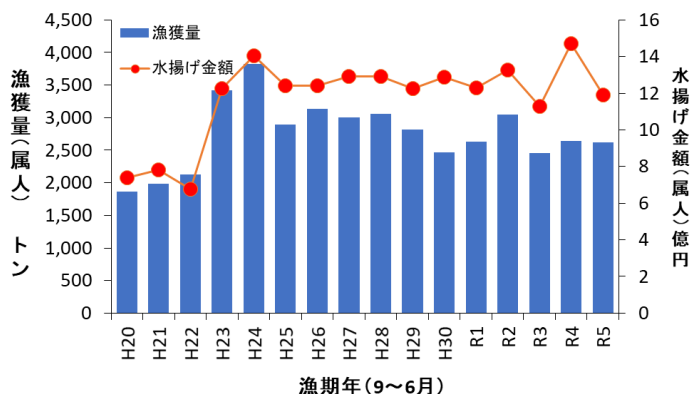


図1 底びき網漁業の漁期別漁獲量と水揚金額の推移

2. 漁獲量及び水揚金額で主体となった魚種

令和5年漁期に漁獲量が多かった上位5種は、1位メヒカリ712トン（前年漁期635トン、1位）、2位サバ194トン（同22トン、16位）、3位ヒラメ171トン（同224トン、3位）、4位ヤリイカ166トン（同471トン、2位）、5位アナゴ95トン（同72トン、7位）、でした（図2）。

水揚金額の上位5種はメヒカリ、ヒラメ、ヤリイカ、アナゴ、スルメイカの順となり、前年漁期に比べてヤリイカは減少しましたが、その他の種では増加しました。水揚平均単価は、メヒカリ421円（前年漁期468円）、ヒラメ714円（同431円）、ヤリイカ692円（同732円）、アナゴ704円（同644円）、スルメイカ685円（同493円）でした。平成23年漁期以降は、平成27年漁期を除いてヤリイカが水揚金額1位でしたが、今漁期は漁獲量だけでなく水揚金額でもメヒカリが1位となりました。

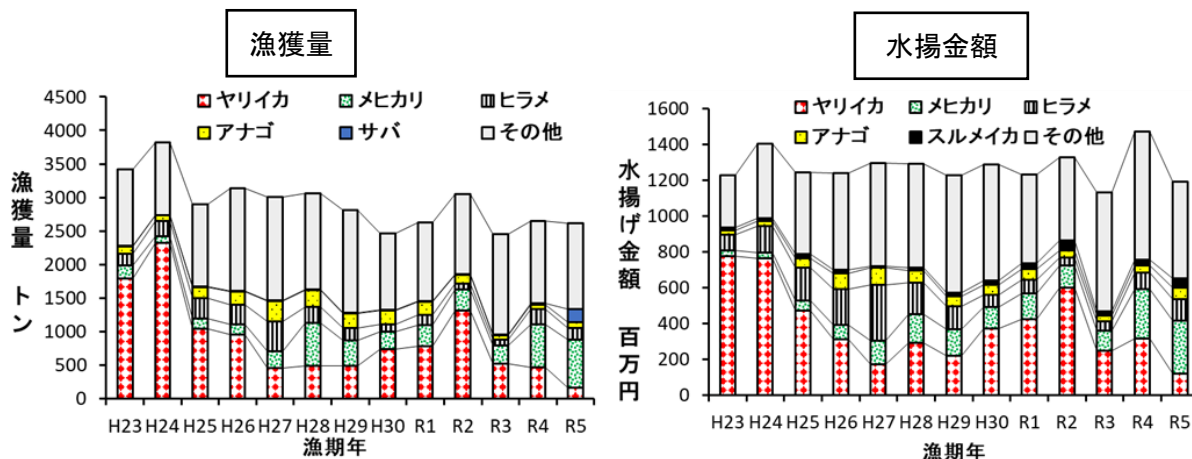


図2 漁獲量及び水揚金額で主体となった魚種の推移